

Reduced resting-state functional connectivity between insula and inferior frontal gyrus and superior temporal gyrus in hoarding disorder

加藤, 研太

<https://hdl.handle.net/2324/7363655>

出版情報 : Kyushu University, 2024, 博士 (医学) , 課程博士
バージョン :
権利関係 : Creative Commons Attribution 4.0 International



氏 名： 加藤 研太

論文名： Reduced resting-state functional connectivity between insula and inferior frontal gyrus and superior temporal gyrus in hoarding disorder

(ためこみ症における島皮質と下前頭回および上側頭回の安静時機能的結合性低下)

区 分： 甲

論 文 内 容 の 要 旨

ためこみ症 (Hoarding disorder: HD) は、様々な認知制御障害と、個人の所有物の廃棄あるいは実行機能課題中の島皮質・前部帯状回における異常な脳活動によって特徴づけられる。しかしながら、HDが安静時においても島皮質・前部帯状回の機能的結合性に異常を示すかどうかは不明なままである。本研究の目的は、HDの神経生物学的基盤に関与すると考えられる島皮質と前部帯状回に関連する安静時機能的結合性を、seed-based analysis を用いて明らかにすることである。HDに関する先行文献に基づき、HD患者は島と前部帯状回を中心とした安静時機能的結合性に異常がある可能性があると仮定した。HD患者24名と健常対照31名の計55名が研究に参加した。安静時機能的磁気共鳴画像を撮像し、全脳ボクセルにおける島皮質と前部帯状回の安静時機能的結合の群間差を検討した。その結果、HD患者では、右島皮質と右下前頭回および右島皮質と左上側頭回との間の機能的結合が、健常対照と比較して有意に低かった。これらの結合性とためこみ症状との間に相関はみられなかった。臨床的意義は不明であるが、われわれの結果は、HD患者が島皮質と下前頭回および上側頭回との間に安静時の機能変化を有することを示唆しており、これまでのHDにおける機能的磁気共鳴画像研究の結果と一致している。これらの知見は、HDの神経生物学的基盤に新たな知見を与えるものである。